

第9回APEC交通大臣会合 大臣共同声明の概要

冒頭

- APEC交通大臣は、フィリピン・セブにて、「誰もが利用でき、持続可能性のある交通を通じた経済成長の推進」とのテーマの下、議論した。
- 「女性と交通フォーラム」、「APECビジネス諮問委員会」の成果について報告を受けた。

APEC東京会合からの成果

- 前回、2013年に東京にて開催された第8回APEC交通大臣会合で議論された様々なイニシアティブは、APEC交通大臣会合ワーキンググループにおいて進展している。

特に、持続可能な投資に関するPPPプロジェクトの実施と理解の促進のためのベストプラクティスの編纂、利用者利便性やアクセス性が高く、効率的で、環境に優しく、安全で、災害に強く、ライフサイクルコストに優れた「質の高い交通」ビジョンの策定、2020年を目標年として物理的、制度的な統合をビジュアル化したコネクティビティマップの作成について、そのプロジェクトを推進した日本に感謝の意を表す。

誰もが利用できる交通

- 誰でも利用できる交通の進展が人々の生産性を高め、経済成長を加速することから、APEC地域において「誰もが利用できる交通」フレームワークの作成に関するイニシアティブを承認する。このフレームワークでは、身体障害者、女性、子供、学生、高齢者を含む全ての個人が交通手段にアクセスできる計画や仕組みを発展させる道筋を明らかにする。

持続可能な交通の推進

- 安全、安心な交通の推進を、引き続き、APEC交通大臣ワーキンググループで最優先の課題とする。
- 全ての交通モードにおいて国際的な安全、安心を確保することは優先事項である。各国・地域は最新の技術の活用を促進し、人材育成に力点を置く。
- ICAO、IMO等との連携に引き続き努める。

災害に強い社会インフラへの投資

- 仙台で開催された国連防災会議を受けて、全ての国・地域は、救命活動を維持

できるよう、災害時あるいは災害後に、安全性を確保し、サービスを供給できるよう新たな交通インフラや既存の交通インフラの防災機能を高めるべきであると主張する。また、サプライチェーンの防災性を高めるプログラムの推進を図る。

環境技術の推進

- 交通部門が温暖化ガス排出の最大の部門の一つであることから、国連の気候変動条約の枠組みでの活動を支持する。また、エネルギー効率に優れ、環境にやさしい交通モードの推進を促進する。

交通システムにおける技術的革新の推進

- 自動車基準の国際認証を進める。
- 新たな技術が輸送量や環境性、効率性を高めることを認識しつつ、これらの技術の適用において全ての関係者と共存できることを考慮すべきである。
- I T Sの推進はA P E C地域の交通システムの向上に不可欠である。全ての国・地域は交通分野の効率を高め、効果を上げるためにI T Sを活用すべきである。また、誰もが利用できる交通を進めていくために、I T Sの活用方策を検討する。

連結性の向上

- 人、物、サービス、投資の移動をスムーズにするために交通システムの改善を進める。
- サプライチェーンのボトルネック部分を明らかにする。
- 金融機関に受け入れられるP P Pの優良事例を共有し、P P Pに関する協力を強化する。
- クルーズの促進に関するイニシアティブ、海洋連結性強化プロジェクトの推進を歓迎する。

その他

- 人材育成、能力向上のための協力を進める。
- 交通分野への女性の進出を進める。